

甲府市の自殺対策について

甲府市議会 山田 厚

1 甲府市の職員の自殺事案に対して、

どのような認識と対応をお持ちか

①今年度の痛ましい自殺事案が続いてきたことにどのような認識をお持ちか？

今年度、相次いで市職員の痛ましく悲しい重大災害・自殺が続きました。この事態に対してどのような認識をお持ちなのか？ 冒頭お聞きします。

② このような事態を二度と起こさないための要因の調査分析と対応はいかがされているのか？

そして、このようなもっとも重大でもっとも悲しむべき事態を二度と起こさないために、要因の調査分析と再発防止の具体的な対応をどのようにされるのか？お聞きします。

2 ゆとりある労働に向けて、甲府市の正規非正規職員の

心身の健康状態とその確保についてどうされますか

① 甲府市の正規非正規職員の健康状態の現状をどう把握され、どう対応されてきましたか

近年の自殺統計の傾向によると「勤め人・被雇用者」の自殺割合が多く、その原因と動機では「勤務問題」が多くなっています。甲府市役所の職員の方々ですから言うまでもなく「勤め人」です。そしてその原因と動機としては「勤

務問題」があると考えられます。

2年ほど前の話です。友人と市役所周辺を車で、平日の5時半頃、通った時です。勤め人風の二人の人が歩いているのを見た友人は「今時、この時間で退社できるのは市の職員ぐらいだね」というのです。私は、「それは30年くらい前の話ですよ・・・今の市の職員の働き方は、かなり苛酷も苛酷。体の調子の悪い人も多くなっていますよ。これから中核市や開府500年のイベントでさらに多忙になってしまう」といいました。友人は「へーそんなもんかね」と半信半疑でした。

市民には30年前ほどの市役所のイメージで「市の職員はゆとりがある」「ラクな職場」と思い込まれている人も多くいます。しかし実態は異なります。

例えば、

- ・健康診断結果の健康不調を表す**有所見率**が極めて高い傾向があります。民間も含めた全国平均をかなりうわまわっている状態です。
- ・その有所見者が**二次健診**を受けていない傾向も健康不調と共に多忙化の状況のあらわれです。
- ・**傷病休暇者・病気休職者数**も2019年度は、かなり多くなっています。
- ・当然、**心の不調**も多くなっています。

これらの現状をどう認識されてきましたか？今回の様な重大な災害には、そのすそ野に小さくとも数多くの事態があります。これらの事態の改善に向けてどう対応をされてきましたか？またこれからどのような対応をされますか？お聞きします。

② 中核市移行にともなう事業の増大に対してのゆとりある職員数はどうだったのか？

中核市・開府500年事業などイベントが多すぎた事態の是正はいかがか

私たちは、この間、甲府市が**中核市に移行**することで職員の業務量が増大すること。また中核市移行と甲府開府500年にともなう**様々な事業とイベント**が多すぎる。これらのことで職員の負担が、さらに過重になると危惧してきました。

中核市移行では、日本一人口が少なく、全国でもっとも小さな中核市甲府が2549もの膨大な事業が新たに増えました。職員は正規42名、非正規職員8名を増員しましたが、このことで十分な職員数の対応と言えるのでしょうか？

また、イベントが多すぎました。公的財政を支出し、職員の負担をもたらすイベントが多かったことは明らかです。その精選と削減をこの2年ほど前から求めてきましたが、それが、「市政の目玉・売り」のように続けられてきたことは、極めて残念であり、疑問に感じています。

このことの是正が問われていますが、いかがお考えでしょうか？

③ 長時間労働や業務の個人責任の是正、ハラスメント対策などの調査と研修。 労働安全衛生委員会の活動の強化を

甲府市は、この1～2年、「長時間労働の是正」「年休取得率」は進んでいるとされていますが、もっと丁寧に状況を調査・分析される必要があります。

今、「仕事の責任は個人責任」とどこでもされています。この状況においては、使用者・当局の責任で「人手を増やして、仕事を減らす」ことがない中で、個々の労働者に「長時間労働を是正しろ、年休とれ、だが仕事はやり切れ！」となりかねません。またこの事態はハラスメントの職場ともなるのです。

甲府市は、セクハラ対策はあってもパワーハラスメントの調査・対策・研修がありません。ここでの改善が問われています。労使で労働安全衛生委員会をしっかりと機能させ、職場の心身の健康を確立すべきですが、当局の見解をお聞きします。

3 健康都市であり自殺対策推進計画を持つ甲府市として、 まず、甲府市からの改善を目指されたい

① 甲府市の自殺対策推進計画には「勤め人」・「勤務問題」にもっと重きを置かれるべき。ハラスメント対策も推進計画に含めるべきでは

甲府市は2019年3月に「甲府市自殺対策推進計画」を策定されました。9月には「健康都市」を宣言しています。これらの自殺対策や健康都市宣言からも甲府市全体の心身の健康としっかりした自殺対策が求められます。

山梨県の自殺率は全国の都道府県で最も高い県となっています。警察庁の統計では発見地と住所地で自殺者数が統計となるため、「樹海があるから」山梨県が多いとされてきました。しかし甲府市の自殺率の高さは山梨県の平均値よりも高い状態です。全国的にみてもかなり高い状態です。この状態からも甲府市

の自殺対策をもっと丁寧にしっかりした内容にしていく必要があります。当局の見解を求めます。

② まず甲府市役所から正規非正規職員の労働条件の向上と労働安全衛生の確立し、甲府市内の事業所のお手本になるべきです

そのためにも、まず足元の甲府市役所の正規非正規職員の労働条件の向上と労働安全衛生の確立です。甲府市内の最大の雇用先である甲府市役所が甲府市内の事業所のお手本とならなければなりません。

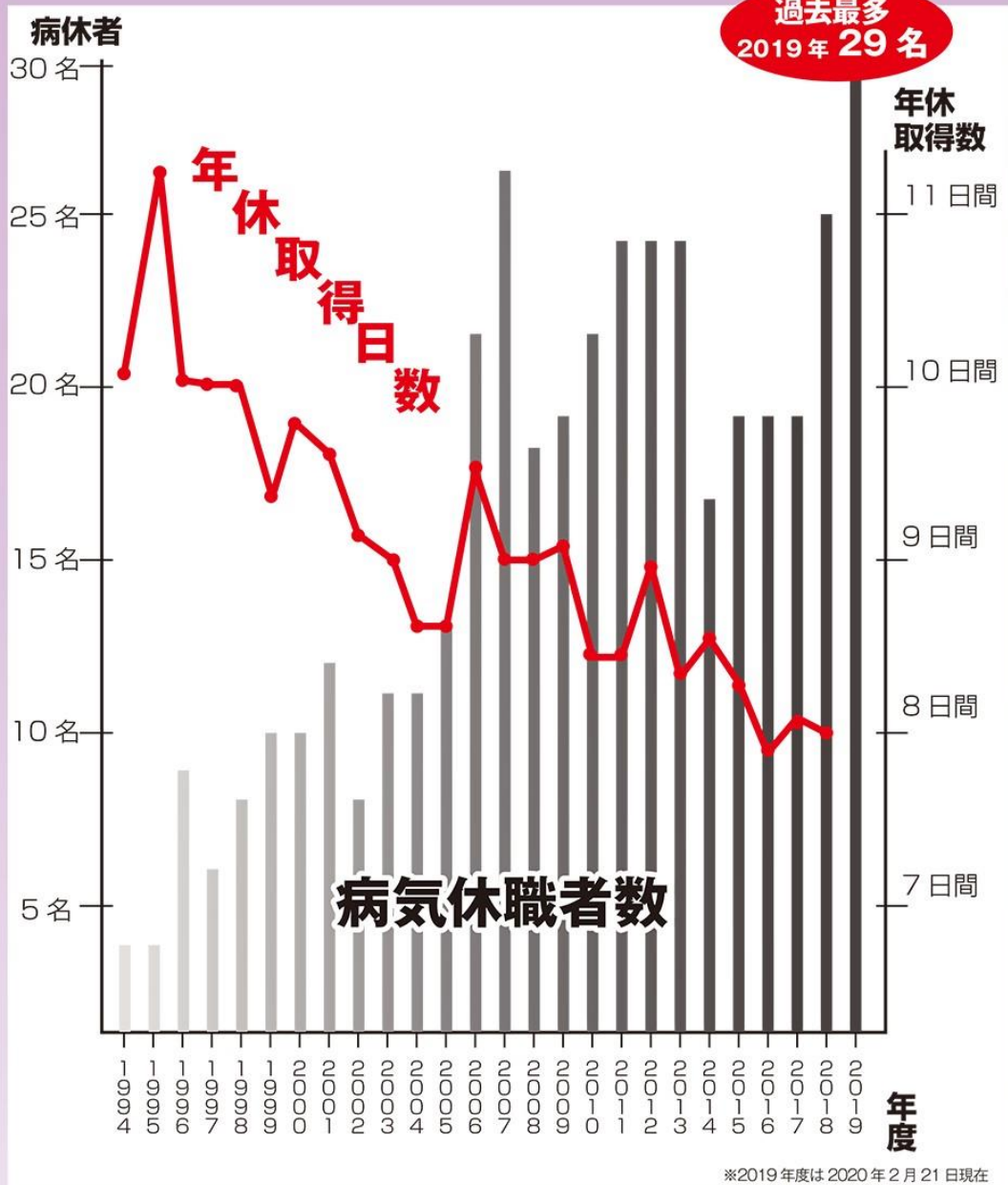
また小さな災害も大きな重大災害も、業務に起因しているのなら、労働災害であり公務災害です。その災害補償が必要です。労災補償法制にも、公務災害補償法制にも、使用者・任命権者の**補償手続きの「助力義務」**が明記されています。

甲府市は、この問題でもお手本とならなければなりません。いかがお考えか、伺います。

※これは発言原稿です。再質問と答弁は載せていません。詳しくは甲府市議会のホームページをご覧ください・この時のパネルは山田のホームページをご覧ください。

甲府市職員は年休がとりづらく

病気休職者が増加傾向に！

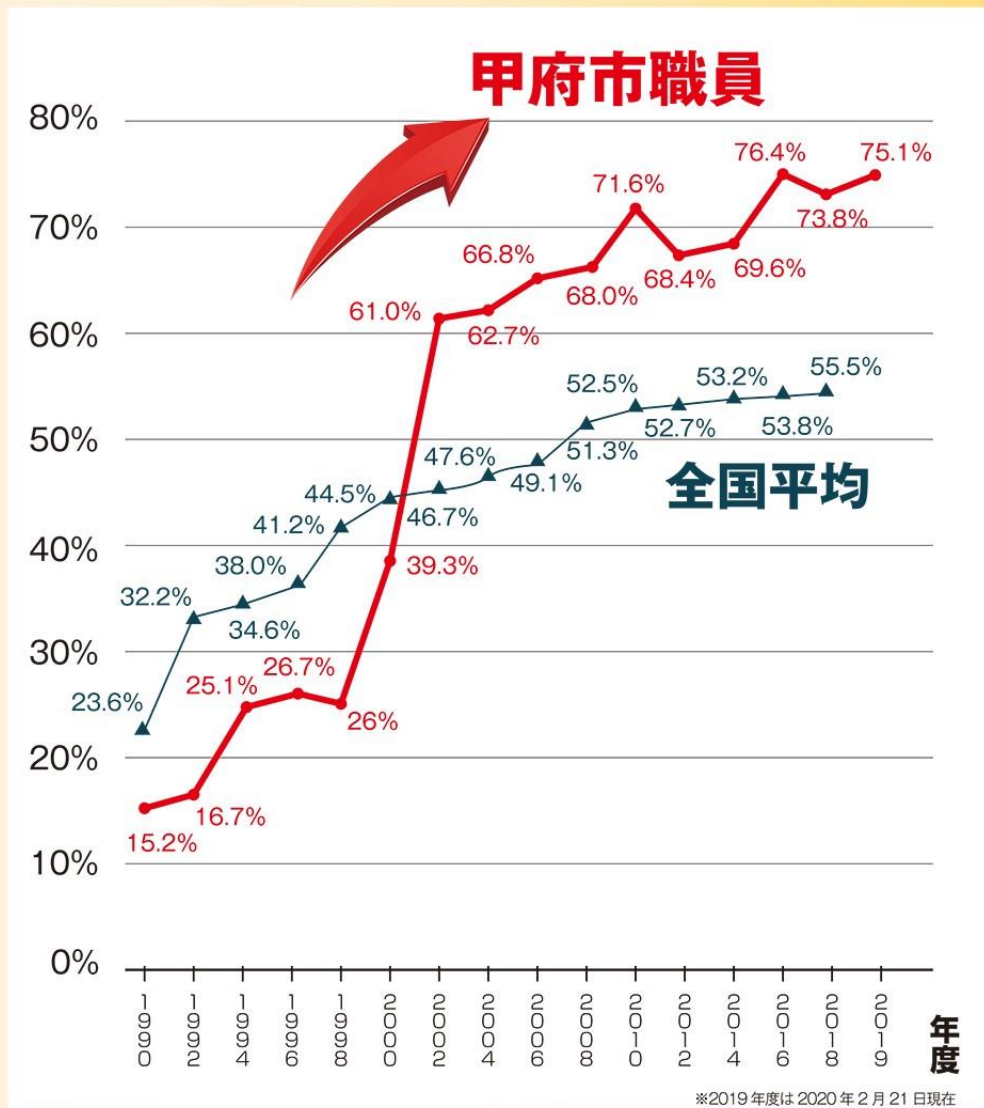


2020年2月「甲府市実績報告書」より山田が作成

甲府市職員の健康不調が強まっている！

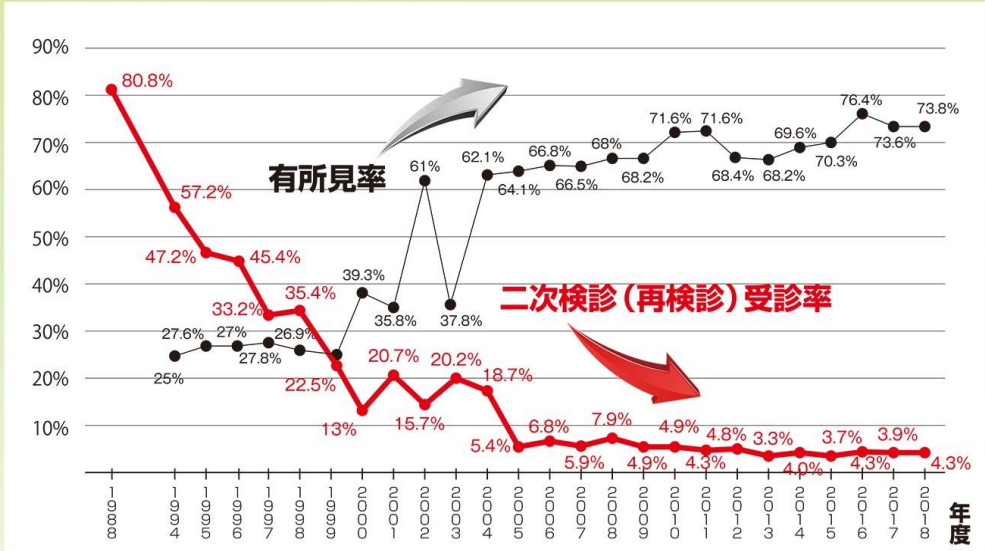
かつては全国平均を下回っていたのに、今は....

◦甲府市職員の有所見率（定期健康診断での不調率）の推移◦



厚生労働省「定期健康診断結果報告」、甲府市「実績報告書」より山田が作成

甲府市職員は体調不良(有所見)であっても 多忙化で二次検診(再検診)できないのでは?!



2020年2月甲府市「実績報告書」より山田が作成